



ゆずりはの森から

第155号
2016年3月3日発行



NPO法人
ゆずりは学園

- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生
- 社会人

第11回卒業式を迎えて

学校現場はなかなか変わらないものがあります。毎日学校に通うのは地獄のように苦しかったと言った生徒もいます。早く学校辞めて出て行けよと言われた生徒もいます。学校を出るとき、担任が泣いてくれた。自分に力がなかったと言ってくれた。本当は担任は良い先生だったと思っただけなのに、色々な思いを持って子供達はゆずりは学園にきました。

学校は「菜校」であってほしいと思います。子ども達を支える、子ども達のための菜校であってほしいと思います。

フリースクールを設立して16年になりました。当時法律用語にならないうちのこ



卒業おめでとうございます

に行っても「フリースクールって何ですか？」と聞かれたものでした。北海道余市高校を訪問し、職員室に金髪茶髪の生徒が群がるのを見て、また校長先生が生徒が笑いながら話すのを見て、愛知県にこんな楽しい学校を作ろうとして出来たのがゆずりは学園です。今その北海道余市高校を卒業したヤンキー先生が文部科学副大臣になつています。フリースクールをもっと大切な子ども達の居場所にしてほしいと動きが出ています。16年前2人から始まった学園も117名が通う学園になりました。

本校にありがたいなりました。高校を辞めると聞かされたあの日...もう二年も経つのですね。決断力は早くあうけないものでした。本人の意思は強く...でも学校側は春休みぎりぎりまで呼び出されて...担任は分かってくれたけど上の方の先生が分かってくれなかったみたいなんです。学校の体裁ですかね...親の方が不安でしたが今思うと子供にはこんな選択肢もありかな...と思えました。働きながら学校へ行へ...大変だったと思いますが、愚痴はひとも言いませんでした。つらい事もあったでしょうが...元気よくゆずりは学園に通ってくれたのでよかったです。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

子供をぐんぐんから救い上げて下さったゆずりは学園のパパママに心から感謝しています。

学校生活の場の最も大切なものを見て感じて考えさせられました。子供達それぞれに苦しみ悩み行きていた場所だと思えます。子供は行き着いた場所に違和感を持ち続けていました。親子で苦しめたのを他の学校で果たして見守ってくれたらどうかと改めて思った時、ママパパの存在がとて大きく私たちの心の支えになりました。親子関係がぎくしゃくしてしまひながら乗り越えて今日まで大切に今は生活できる様に変化してきました。己の人格すべてを否定された事がきっかけだったと思うと本当に良いことまで自分で這う上がらうと頑張ってきたなと、改めて感じました。

何年掛かっても子供には幸福になんて欲しいと思うばかりです。時間は掛かりましたが、一歩一歩前進又一歩後退だけども、強ひつたと思つたので子供を信じてほしいと思います。優しく人を思う気持ちも人一倍ある子供です。もう卒業式という日を迫えると思つて寂しくもあり複雑な気持ちです。

最近では娘に笑顔が出る様になりました。心に少しゆとりが出てくるのかもかもしれません。ママに子供が頼る時があるかも知れません。その時はママパパさん、力を貸して下さい。お願いします。

高校になって初めての新年、同級生に「高校生活は楽しかったですか？」と年賀状に書いた返事は「楽しかったです」と書いてあったのを見て出し、娘は中学の先生から受験を薦められその通りになっていたら楽しかったのかと思ひました。

ゆずりは学園で周りの目を気にせずやりたい事を成長に合わせやらせて頂き卒業は皆と変わらずできる学園で良かったと思ひます。学園を出た子の方が社会で良い子達になるんじゃないかと思ひます。ゆずりは学園でよかったです。ありがとうございました。

卒業という節目は迎えましたが、今後共に生きていこうと思ひます。

私の子供は中学一年生の二学期から不登校になりました。公立の学校というものにも、先生というものにも期待をしたり何かを得ると言う経験が出来ると言うことから遠く離れてしまいました。思ひ出したくもない中学校生活を過ごした母子にあっては高校に通うことにはとてもハードルの高いものでしたがママさんパパさんをよく知っていた私にはゆずりは学園という選択をしました。ここには迷ひはありませんでした。

ムで絶妙なトーンに心が救われた事を今でも忘れません。子供とは離れて暮らす事になり、毎日寝ても覚めても心配な日々を送りましたが、今こうして卒業の日を迎える事ができたのもママさんから連絡を取って頂いたり声を掛けて頂いたお蔭だと思っております。普通とは違う高校生活を送りました子供にして普通の高校生活を送るより実のある3年間でした。毎日の洗濯やお弁当に水筒用意、生活費の支出も毎月遅れることなくできました。人が何と言おうと我慢の子供です。見守り御指導して頂き、本当にありがとうございました。これからはお世話になった方々へ少しでも恩返しができるような人間に成長していかないと願ひます。

私が初めてパパさんとお話をしたのは、子供が小学校一年生の時でした。確かフリースクールについて問い合わせのお電話をしたと思ひます。それから4、5年後、近所の方からゆずりはの親の会に誘われて行きました。今から7年前になりましたが、それ以来子供も私も何とか生きて来られるのは、やはり、ゆずりは学園という場所があったから、パパさんママさんの、子供達を想う気持ちからの行動力には頭が下がります。親子ともに成長はしているものの、思うようにはいきませんが、あきらめないうちで一生学びたいと思ひ、いつかききたいと思ひます。これもゆずりは学園のお蔭で前向きに生きていきます。

この二年お世話になりました。お世話になりました。お話を聞きました。いつも親身になって子供や私の話を聞いてくれ、相談に乗って頂き、本当に嬉しかったです。子供が今こうして卒業できるのもパパさんママさんが支え、指導してもらったおかげだと思います。これからまだまだ未熟な親子なので会った時は話を聞いてくれたら嬉しいです。

パパさんママさんもお体に気をつけていつまでも子供達の笑顔が絶えない場所を守って頂ける事を心から願ひます。本当にありがとうございました。

生徒の保護者からの手紙



月日が経つのも早いもの、中一の時の友達死から始まり、中二になってからのいじめに耐えられず、ゆずりは学園にお世話になるようになって子供の人生は救われ楽しい人生が送れたと思ひます。

子供がゆずりは学園への転校を希望して不安に思ひながらお電話した時のママさんへの優しい御親切な対応と、初めてお会いした時のパパさんへのママさんのアットホーム

二年間お世話になりました。卒業も決まり、就職先も決まり本当に嬉しんでいます。二年間で子供はとも成長したと思ひます。働きながら学費を自分で払い続けた事、色々な仕事で悩んだ事沢山あったと思ひます。この二年間で学んだ事は、子供にたいしての力になると思ひます。

お知らせ

お問合わせ・連絡先

自閉症・アスペルガー等の「発達障害」の子を持つ親の会
ゆずりはの会 (170回)
○日時/4月8日(金) PM1:30~3:00
○場所/ゆずりは学園
(毎月第2金曜日 5/13・6/10・7/8)

ゆずりは学園事務局
〒441-3421 田原市田原町池の原15-13
TEL:0531(22)3515 FAX:0531(22)7761
E-mail:kutsuna_ike@yahoo.co.jp
http://www.yuzuriha-gakuen.com/
http://ameblo.jp/yuzurihaschool/
http://ameblo.jp/kutsuna-diary/